

シラバス（様式例）

| | | | |
|---|-------------------------------------|-------------|------------|
| 授業科目名： TLP240 教育相談 | 教員の免許状取得のための 必修科目／選択科目 | 単位数： 2単位 | 担当教員名：松村あり |
| 科目 | 教職に関する科目（生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目） | | |
| 各科目に含めることが 必要な事項 | ・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 | | |
| <p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>現在、いじめや不登校、神経症、発達障害、少年犯罪など生徒児童が示す不適応は多岐にわたり、その数も増加している。教育相談の重要性を認識し、生徒児童の発達の課題と問題行動についての理解を深め、生徒の主体性を尊重しながら教師として関わる姿勢を学ぶ。特に、支援に役立つ教師としてのカウンセリング的態度の習得を目標とする。</p> | | | |
| <p>授業の概要</p> <p>本講では、教育相談の役割と意義について理解した上で、相談活動に役立つカウンセリングの基礎を実習を通して学ぶ。また不登校や反社会的行動、発達障害など、実際に教育相談活動で直面しうる問題について、その臨床的背景を理解し、教員としてどのように支援できるのか効果的な対応方を学ぶ。問題を抱えた生徒個人への支援以外にも、問題発生前の予防的な働きかけや、保護者への支援、スクールカウンセラーや関係者との連携、教職員のメンタルヘルスについても取り上げる。理論的な面に加えて、実際の事例研究や、相談場面のロールプレイングなどを通して実践的な学びを取り入れる。</p> | | | |
| <p>授業計画</p> <p>第1回： 教育相談とは（歴史、役割、実際）</p> <p>第2回： 教育相談に活かせるカウンセリングの基礎、カウンセリングとは</p> <p>第3回： カウンセリングの人間観</p> <p>第4回： カウンセリングの理論の前提</p> <p>第5回： カウンセリングの理論、精神分析的カウンセリング</p> <p>第6回： 来談者中心療法</p> <p>第7回： 倫理療法</p> <p>第8回： 家族カウンセリング</p> <p>第9回： ソリューションフォーカストアプローチと問題の捉え方</p> <p>第10回： 中間試験</p> <p>第11回： 生徒の問題の理解と対応、発達の課題の基礎</p> <p>第12回： 不登校といじめの理解と対応</p> <p>第13回： 反社会的問題行動の理解と対応</p> <p>第14回： 神経症的問題の理解と対応</p> <p>第15回： 軽度発達障害と特別支援教育</p> <p>第16回： 教育相談の予防的働きかけ</p> | | | |

シラバス (様式例)

第17回： 保護者に対する支援、校内での協力体制と他機関との連携

第18回： 教職員のメンタルヘルス

第19回： 事例検討

第20回： 期末試験

テキスト：カウンセリングの話 平木典子著 朝日新聞社

これ以外に,必要に応じて資料を配布する。

参考書：学校教育相談 MINERVA 教職講座 10 一丸藤太郎・菅野信夫編著 ミネルヴァ書房。

学生に対する評価

中間試験 40%、 期末試験 40%、 出席と授業参加態度 20%